

『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。
スパークスの日本株の情報発信レポート



第59号 (2011年4月28日)

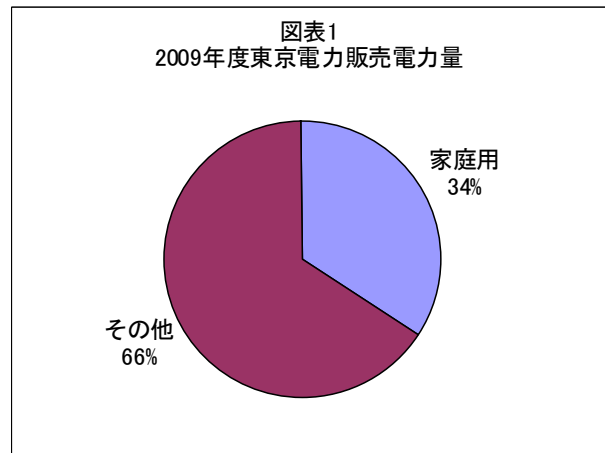
「消費者のニーズ・行動の変化」

東日本大震災から1ヵ月半が経ちました。大きな傷跡が癒えるにはどのくらいの時間が必要か、未だ見当が付きません。復興に向けた長い道のりは、国を挙げて支えて行かねばならない、大きな試練だと考えます。一方、震災の発生以降、全国各地で支援・協力の輪が広がっている様子を見ると、日本に住むものとして非常に心強い思いがします。

現在直面している大きな問題の一つに、東京電力管内の電力不足があります。2011年夏のピーク時に、15%程度の電力が不足すると言われていています。電力需要に占める家庭用の割合は3割程度になっており、電力不足を乗り切るためには、一人ひとりの節電への協力が欠かせません。[図表1]

実は、ここでも協力の輪が広がっています。例えば、4月上旬の大手家電量販店におけるLED電球の売上個数は、前年の2~3倍になっているとの報道があります。元々LED電球は、白熱電球に比べて寿命が長く、消費電力が少ないため、取り替えると節約ができるお得な商品です。しかし現実には、価格(初期費用)の差が大きいことや認知度の低さ等がハードルになって、今まであまり普及していませんでした。それが、節電に協力したいという消費者のニーズにマッチしたことで、大きく普及する可能性が出てきたのだと考えます。

[図表2・3]



出所：東京電力



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

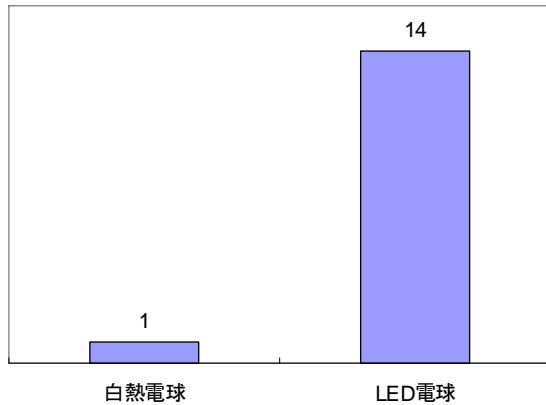


『まいこばなし』

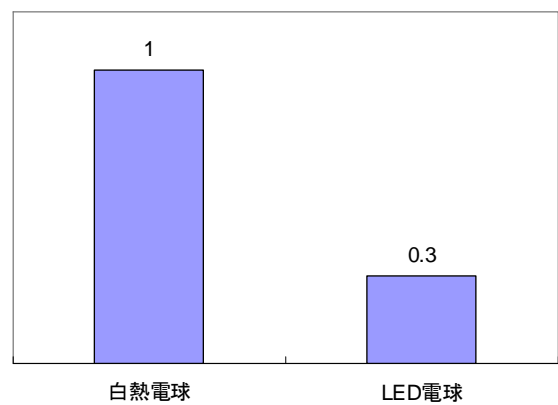
スパークスの日本株の情報発信レポート



図表2
初期費用（白熱電球を1とした場合）



図表3
5年間トータルコスト



出所：年間使用時間を2,000時間として、消費電力、設計寿命等はメーカーのデータを参考に、スパークスにて試算

今回の震災のような大きなショックは、様々な面で変化をもたらすと考えられます。LED電球は消費者のニーズ・行動が変化した例だと考えます。それだけではありません。今後予想される電気料金の上昇は、その他のエネルギーを相対的に割安にし、需要をシフトさせる可能性があります。また、今までコスト負担の面から見送られていたリスク対策が、今後は採用される可能性があります。

このような変化は、今後多くの投資機会をもたらすと考えられます。資本市場参加者として、今後現れる投資機会を発掘してリターンをお客様にお届けするとともに、復興関連銘柄への投資などを通じて微力ながら復興を少しでも後押しできればと考えております。

※当コラムに掲載された企業は、あくまでも当コラムの内容の理解を深めて頂くためのご参考として掲載したものであり、個別企業を推奨しているものではありません。

※当コラムは執筆者の見解が含まれている場合があり、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の見解と異なることがあります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。